

大阪・関西万博関係府省庁連絡会議（第3回）

議事要旨

日 時： 令和4年1月28日（金） 17：30～18：05

場 所： 合同庁舎4号館 第一共用特別会議室

出席者：

（議長）	国際博覧会担当大臣	若宮健嗣
	国際博覧会担当副大臣	細田健一
（副議長）	内閣官房国際博覧会推進本部事務局長	新原浩朗
（副議長）	経済産業省2025年国際博覧会統括調整官	井上 学
	内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長	高科 淳
	内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長	長田 敬
	内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長	益田 浩
	内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長	渡辺 健
	内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）	木村 聡
	内閣官房危機管理審議官	下田隆文
	内閣官房内閣広報室内閣審議官	渡邊 清
	内閣府政策統括官(防災担当)	榊 真一
	内閣府地方創生推進事務局審議官	渡邊政嘉
	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官	米田健三
	警察庁長官官房総括審議官	近藤知尚
	消費者庁次長	高田 潔
	デジタル庁国民向けサービスグループ長	村上敬亮
	復興庁統括官付参事官	滝本浩司
	総務省大臣官房総括審議官	鈴木信也
	出入国在留管理庁出入国管理部長	丸山秀治
	外務省経済局長	小野啓一
	財務省大臣官房総括審議官	小野平八郎
	文部科学省大臣官房総括審議官	柿田恭良
	厚生労働省政策統括官(総合政策担当)	大島一博
	農林水産省大臣官房総括審議官	安東 隆
	国土交通省総合政策局長	加藤 進
	観光庁次長	村田 茂樹
	環境省大臣官房総合政策課企画評価・政策プロモーション室長	相澤 寛史
	防衛省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官	上田 幸司
	2025年日本国際博覧会協会経営企画室長	岩田 泰

1. 冒頭挨拶

○若宮大臣

- ・本日は、お忙しいところお集まりいただき感謝。
- ・大阪・関西万博まで、残すところいよいよ3年3か月を切った。各国への参加招請活動、あるいは会場及び周辺インフラの整備、大阪・関西万博のコンセプトである「未来社会の実験場」の具体化の検討、そして全国的な機運醸成など、万博の開催に向けて、オールジャパンで取り組んでいるところ。何としても万博を成功に導き、日本全体の活性化につなげていきたいと思っている。
- ・「未来社会の実験場」の具体化については、皆様方にご協力いただきながら、昨年12月に「2025年大阪・関西万博アクションプラン Ver. 1（バージョン・ワン）」を国際博覧会推進本部で決定した。
- ・アクションプラン Ver. 1（バージョン・ワン）は、現時点での取組や検討状況について取りまとめたもの。今後、事業の進捗や博覧会協会・企業・地元自治体等の提案も踏まえながら、少なくとも半年に1回改訂を行い、予算措置、新たな制度設計、規制改革など必要な措置を順次講じていきたいと考えている。
- ・今年の春頃には、この「アクションプラン」の改訂を行いたいと考えているので、本日は、各府省庁の取組についてご説明いただくとともに、「未来社会の実験場」の実現に向けて、既存の枠にとらわれず柔軟な発想で、こういった形での各省連携が可能かなど、活発なご議論をお願いしたいと考えている。
- ・各府省庁におかれましては、本日の議論も踏まえ、各施策の今後の進め方について、より具体的な作業工程へと落とし込んでいただきたい。ここは重要。取組を着実に進めていただきたいと思う。また、それぞれの所管分野における最新の技術やサービス、あるいはイノベーションの動向なども踏まえ、新たに追加し得る施策の検討についても、ぜひ幅広い視点でより一層の積極的な対応をお願いしたい。例えば、空飛ぶクルマについては既にあちこちで話題が出ている。柔軟な発想で皆様のご意見をいただきたい。
- ・大阪・関西万博の成功に向けて、政府一丸となって進めて参るので、皆様方の引き続きのご協力をよろしくお願いしたい。

2. 事務局等からの説明

○高科国際博覧会推進本部事務局次長

- ・資料1：アクションプランは未来社会 具体化。今後少なくとも半年に1回のペースで改訂。
- ・今春の改訂に向けて、各施策の今後の進め方について、より具体的な作業工程へと落とし込んでいただき、取組を着実に進めていただきたい。
- ・企業関係のスケジュールについては、博覧会協会から説明があるので、それを参考に進めていただきたい。場合によっては博覧会協会も含めた議論の場を設定したりしたい。
- ・資料2：大阪・関西万博関係府省庁連絡会議幹事会の構成員として、内閣府地方創生事務局・消費者庁・デジタル庁を追加。
- ・資料3：サイバーセキュリティ分科会にデジタル庁追加。

○博覧会協会 岩田経営企画室長

- ・資料1：全体のスケジュール。2025年4月の開幕を意識して準備していく年。一つ一つのアイデアについて誰が責任を持って進めて行くかと言うことを意思決定していく必要。
- ・万博を最大限活用したアイデアはいくらでも出すので、是非協会に相談いただきたい。プロデューサーも交えて考える。
- ・資料2：会場を交えてスケジュール整理。工事をするための詳細設計を行う年。地下の使用や、建物を建てていくのにタイミングとしてギリギリ。展示やイベントをするなら、何をやるかを考えて決める年。例えば食。食ということで展開する場合は、食のことを考えたパビリオンを作るとするのは現時点で難しい（時期が過ぎている）。でも会場内のレストランを使って和食文化の発信などは可能。これから考えていくところである。会場の中で一日や一週間のイベントを決めて、和食文化を発信するということもできると思う。
- ・小橋健児さんに催事のプロデューサーになっていただき、これから企画を考えていただく。2023年度の概算要求で予算を要求し、イベントを作っていくことになる。
- ・会場内のイベントは外のイベントと繋げていくと効果的。
- ・食と言うことで考えると、ロゴマークやキャラクターをあしらった食品を開発することも考えられる。
- ・今年の前半にはマスターズライセンスオフィスを決定する予定。これができるロゴを使ったビジネスができるようになる。どういう商品を作っていくかと言うことはいつでも受け付けられる。
- ・事業をバラバラと実施するのではなく、統一して実施する方が良いと思っている。ドバイ万博では一週間毎にテーマがあってイベントが実施されている。国際会議やビジネスマッチングなどをしたり、特定の週・日に集中してやると効果的と思われる。
- ・直接アクションプランには関係しないが、協会にもっと人員を派遣していただく必要がある。現在、99%が出向者。国家プロジェクトにもかかわらず、国の人員は10%。是非積極的に職員の派遣をしていただきたい。
- ・万博には要人が多数訪問する。資料にはドバイ万博の例を掲載。経済外交の場であるので、各省庁で進めて居る施策や技術開発などをアピールする場として活用いただきたい。

○高科国際博覧会推進本部事務局次長

- ・協会には多言語開発等にプロデューサーに入っていていただいて、解決していつていることもあるので、積極的に活用していただきたい。

3. 各省からの説明

○井上経済産業省 2025年国際博覧会統括調整官

- ・大阪・関西万博は、日本の魅力を発信する絶好の機会。大阪・関西に加えて、日本全体の成長・活性化にもつながるよう、経産省として、内閣官房など関係省庁と連携し、「未来社会の実験場」の具体化に向けた官民挙げての取組を進めていく。
- ・昨年末に取りまとめられた「未来社会の実験場」の具体化に向けたアクションプランでは、経産省からは、カーボンニュートラル、モビリティ等の分野を中心に、我が国の最新技術

を世界に示し、未来社会の実現に繋げていく施策を登録したところ。

- ・特に、政権の重要課題であるカーボンニュートラル実現に向けた挑戦は、日本の成長戦略そのもの。水素・アンモニア発電、CO2 吸収型コンクリート、CO2 分離回収など、革新的技術の実証フィールドとして万博を活用することを目指していく。併せて、日本の最新技術を世界に示し、ビジネスチャンスに繋げることで、経済と環境の好循環を生み出していきたい。
- ・また、空港などの交通拠点から万博会場への移動手段として、空飛ぶクルマを活用する。さらに、自動配送ロボットによる食事のデリバリーなども行うことで、日本のモビリティ技術を世界に向けて PR していきたい。
- ・経産省では、昨年 9 月に、総力を挙げて未来社会の実験場を構成するプロジェクトの具体化などを進めるために、全部局の局長級職員を構成員とする 2025 年国際博覧会推進本部事務局を整備したところ。こうした体制の元で、今後のアクションプランの改定に向けて、来年度の概算要求も見据えながら、引き続き、必要な施策の充実を図ってまいりたい。

○鈴木総務省大臣官房総括審議官

- ・大阪・関西万博アクションプランに基づき、総務省としては主に多言語翻訳技術の高度化をはじめ、Beyond 5G ready ショーケースの実現等に、力を入れて取り組んでいきたい。
- ・「Beyond 5G」については、万博が開催される 2025 年までの「先行的取組フェーズ」の成果を「Beyond 5G ready ショーケース」として世界に示すことで、グローバル展開の加速等、その後の取組の加速化につなげられるよう、研究開発等の取組を一層推進して参る。
- ・次に、「多言語翻訳技術」については、最先端の AI 技術を活用し、会話の文脈や話者の意図を補完した実用レベルの「同時通訳」を実現するための研究開発を実施していく。
- ・また、併せて多言語翻訳技術の社会実装を推進していくことで、世界の「言葉の壁」を解消し、グローバルで自由な交流の実現に取り組んでまいる。
- ・これらの最新のデジタル技術を活用した取組を通じて、大阪・関西万博のコンセプトである「未来社会の実験場」の具体化に向けて、総務省としても引き続き協力してまいりたい。

○大島厚生労働省政策統括官

- ・厚生労働省の担当は健康医療分野であるが、今回のアクションプランには施策を登録できていない。コロナの対策等で忙殺されていた。
- ・次は省内でいくつか出したいと考えている。次回に向けてよろしくお願いしたい。

○安東農林水産省大臣官房総括審議官

- ・農林水産省としては、和食は世界に誇る文化遺産であり、大阪・関西万博を通じてその魅力を世界に発信するとともに、「農林水産物・食品輸出立国」として、農林水産物・食品の更なる輸出拡大につなげてまいりたい。アクションプランでは、そのために取り組む施策を盛り込んだ。
- ・具体的には、日本食文化・農泊体験の発信、食品ロス削減に向けた飲食物の食べきり、フードシェアリングの徹底等の運動推進、カーボンニュートラルの貢献にも資する木材利用

拡大の促進、に取り組んでまいりたい。

- ・また、昨年5月に策定した、「みどりの食料システム戦略」に沿った未来の持続可能型農林水産業の姿を実証・展示してまいりたい。
- ・具体的には、持続可能型農業の実証モデル構築、スマート×グリーン技術の実証、代替肉・代替飼料等のフードテック事業創出の推進、月面等における長期滞在を支える高度資源循環型食料供給システムの開発、に取り組んでまいりたい。
- ・大阪・関西万博の成功に向けて、当省のみならず関係省庁・団体等とも連携しながら進めてまいりたい。

○加藤国土交通省総合政策局長

- ・国土交通省では、昨年12月に策定された「2025年大阪・関西万博アクションプラン」に沿って、万博のコンセプトである「未来社会の実験場」の具体化に向け、様々な取組みを進めていく。
- ・まず、モビリティ分野については、空飛ぶクルマの実現を目指し、機体の安全性基準や操縦者の技能証明基準等の検討を、スケジュールを更に具体化しつつ進めていく。
- ・また、MaaSなどの新たなモビリティサービスの推進については、幅広い取組みが必要だろうということで、幅広い事業者や国・自治体等の関係者が協同で進めるため、「関西MaaS推進連絡会議」を設置し、昨年12月に第1回会議を開催したところ。
- ・さらに、電動車の活用拡大や自動運転の推進、船舶の省エネ化・電動化についても、地元自治体、事業者等のご要望を具体的に伺いながら、関係省庁とも連携しつつ、進めていく。
- ・観光分野においては、デジタル技術と観光資源とを掛け合わせ、新しい観光コンテンツを創出する取組みを推進している。こちらについても、地元自治体等のご要望を踏まえ、万博の機会も活用した大阪・関西エリアにおける新たな観光の魅力の創出や発信につながる取組みを進めていく。
- ・また併せて、万博の機会を捉えて、訪日プロモーションにもしっかりと取り組んで参る。
- ・国土交通省としましては、今後とも、関係省庁や地元自治体等の関係者と緊密に連携しながら、大阪・関西万博の成功やその後の大阪・関西の発展に貢献するべく、アクションプランに基づく取組み、さらには万博関連のインフラ整備に着実に取り組んでいく。

○相澤環境省企画評価・政策プロモーション室長

- ・現在、環境省では、アクションプランに5つの施策を登録している。①地域脱炭素による地域課題の解決や住民の暮らしの質の向上の取組、②電動車の活用、③持続可能な形で資源を利用するサーキュラーエコノミー、④海洋プラスチックごみ対策の取組、⑤CLT（直交集成版）の魅力発信の取組など、環境分野で、「未来社会の実験場」という大阪・関西万博のコンセプトの具体化に貢献していく。
- ・また、万博が開催される2025年は、我が国の温室効果ガス2030年度46%削減の目標達成に向けた中間年ともいえるべき時期であり、岸田総理が提唱する「アジア・ゼロエミッション共同体」構想に向けた我が国の各主体の取組を発信する上で重要な節目となる。

- ・環境省では、昨年 10 月、省庁横断で大阪・関西万博プロジェクトチームを立ち上げた。同プロジェクトチームを中心に、我が国の先進的な取組の国内外への発信や万博そのもののグリーン化に貢献することを考えている。
- ・今後、環境省が考えるこれらの取組を深掘りしていきながら、アクションプランに反映していただくことを想定しつつ、関係府省等と連携を図りながら、万博に向けた取組を加速化させていく。

○意見交換・質疑応答
特になし。

○細田副大臣

- ・本日はご参加感謝。
- ・各省庁から積極的な取り組みの紹介があった。心強く思っている。引き続き、若宮大臣を中心に取り組みを進めていただきたい。
- ・全体像がどうなっているか、いつまでに何ができるか、これは自分の省庁で抱えられない、ということがあれば早め早めの声を上げていただきたい。

○高科国際博覧会推進本部事務局次長

- ・取り組みの具体化を始め、引き続きご協力お願いしたい。
- ・構成員についてはこれで決定とする。

4. 閉会挨拶

○若宮大臣

- ・関係府省庁の幹部におかれては、ご多忙の中、ご参加いただいたことに感謝。
- ・私自身、本日お話を伺った各府省庁の取組については、しっかりとメモを取らせていただいた。次回の改定に向けて、しっかりと取り組んでいただきたい。
- ・小学 3 年生の時に 70 年大阪万博を訪問した際に、初めて携帯電話、リニアモーターカー、ロボット、電気自動車などを目の当たりして大変驚いたが、それが今や現実のものとなっている。
- ・しかしながら、例えば携帯電話について、現在、日本の製品が世界中のマーケットを席卷しているかと言えば、実際のところ、そのようにはなっていない。あれから 50 年後の現在、果実をしっかりと自分たちのものにできなかったという意味で、残念な状況と言える。
- ・万博は、各国にとってのショールームでもある。例えば、昨年 10 月に開幕したドバイ万博を訪れた首脳の中には、ドバイ訪問の機会を捉えて自国ビジネスのトップセールスを行い、非常に大規模な商談を成立させた事例がある、という話も聞こえてくる。
- ・こうしたことから、万博は、決して単なる一過性のイベントではない。各府省庁がそれぞれ所管する分野において、将来の日本の産業やビジネスの種をまくことができるか、そして、将来においてその果実をしっかりと回収することができるか、こうしたことが問われており、本日ご出席の関係府省庁の幹部各位におかれては、是非このような視点を持っ

て、しっかりと取り組んでいただきたい。

- ・また、ドバイ万博では、会期中の一定の期間を区切って、例えば、食、宇宙、農業、水、環境といった横断的なテーマを設定し、当該期間内に特定のテーマに関する国際会議やイベントを会場内外で集中的に実施するといった取組を行っている。大阪・関西万博においても、こうした取り組みに倣うことで、各界の第一人者や関係者を幅広く世界中から日本に集め、ビジネス・商談、ネットワーキング、あるいは日本各地への訪問など、幅広く、そして裾野広く、様々な機会を提供することにつながるものと考えている。関係府省庁におかれては、是非こうしたアイデアの具体化についても前向きなご協力をお願いしたい。
- ・50年後に、「新しい産業の種はあそこから始まった」「あの万博が、この製品・サービスが世界に売れる源流となった」と評価いただけるような万博にしていきたいと考えており、関係府省庁におかれても引き続きのご協力をお願いしたい。

○高科国際博覧会推進本部事務局次長

今後も、引き続きアクションプランの改訂にご協力いただきたい。